

第2回ワークショップ宿題

今回のワークショップまでに、以下の4つのアクションに取り組んでみてください。

これらの行動を通じて、OSPO活動を「組織レベルの戦略」に進めていきましょう。

1: 学びと思考のふりかえり（じっくり考える）

目的：ワークで得た「自社のOSPO戦略の核」を、一人ではなく複数人の視点で検証し、その妥当性や抜け漏れを確認してみましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
ワークふりかえり			今回作成したワークを自分で再度やってみましょう。その際に社内のデータを活用してブラッシュアップしてみましょう。
ワーク共有			今回作成したワーク結果をあなたのチームのマネージャーや同僚と共有してください。
フィードバック収集			以下の観点で共有したワークへのフィードバックを求めてみましょう。 <ul style="list-style-type: none">・ 方針の妥当性：「自社のOSS活用の目的は本当にこれで合っているか？」・ 見落とし：「自社のビジネスモデル特有のリスクや課題はないか？」
ガイド読み込み			テンプレートの読み合わせをしてみましょう。読書会をしてみましょう。時間と読む章を決めて一緒に読んで自社だったらどうか？という観点で感想戦をしてみてください。

2: ステークホルダーへのエンゲージメント（実際に動く）

目的：ワークで特定したキーパーソンと対話することで、OSPO 活動に必要な社内連携の「橋渡し」を始めましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
キーパーソン特定と声掛け			ワークブックの「第 2 章」で特定した、 法務、セキュリティ、経営層、または他の部門のキーパーソン を再確認して声をかけてみましょう。
共有の開始			上記のキーパーソンから最低 1~2 名を選び、短時間の会議を設定して OSPO 活動の必要性をインパクトあるメッセージで伝えてください。ワークの結果にフィードバックをもらうのもアリです。

3: OSPO 体制の初期構築（準備を固める）

目的：OSPO 活動に必要な体制を整えていきましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
担当者の確定			今回ワークで必要だと感じた役割に対して、適任と感じる人をお願いしましょう。例えば、技術、法務、セキュリティの各専門分野の担当者（または窓口役）など。
体制の整備			承諾してくれた担当者の連絡先一覧を整備しましょう。

4: OSPO ドキュメントのプロトタイプ作成（手を動かす）

目的：スターターキットを基に、ドキュメントを書き始めましょう。

アクション	優先順位	日程時期	内容
プロトタイプの作成			ライセンスポリシーのドキュメントを書き出してみましょう。